

### 【360度音空間認識機能】

補聴器装用の目的は、単に音が聞こえることではなく、言葉の理解が向上することです。そのために騒音抑制とか、指向性とか様々な機能が開発されてきました。そして、現在最も注目されているのがこの機能です。装用者はいつ何時も自分の周りに存在する音源を聞いています。特にレストランとか集会などでは複数の音声が聞こえますし、様々な騒音も聞こえます。従来、このような環境は補聴器を調整するのが一番難しいとされていた場面です。この機能はその最も難しい場面での音声聞き取りに焦点を当てたものと言っていいと思います。この機能を使用して聞きたい言葉の明瞭性を上げる方法は2通りあります。共通しているのは、音の種類、方向、距離感などについて、両耳通信機能も作動させて分析することです。その後については2つの方法がある様に思われます。1つは、分析された音環境全体がどのような環境なのか、予め補聴器に蓄積されている音環境（例えば、騒がしい環境とか大勢の人がいる環境など）の特性と照らし合わせ、その音環境を特定したうえで全体の調整内容を自動的に切り替える方法です。特に必要なのは騒音抑制ですが、それぞれの音環境によって騒音抑制のグレードが異なってきます。もう一つは、音環境のパターンに限らず、音源一つ一つを分析し、騒音については瞬時に抑制を働かせ、音声については方向と距離を分析した上でバランスよく補聴器に音声を届ける方法です。この方法では、聞きたい音声だけでなく、別の音声もある程度聞こえるので、360度からの聞こえの臨場感を感じることが出来ます。しかし、この機能は最近出てきた機能でまだ完全とは言えません。各補聴器メーカーが今後も研究開発を進め、精度が向上していくことが期待されます。